

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500121		
法人名	株式会社JAふるさと介護サービス		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	岩手県奥州市水沢区真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500121-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自家菜園は施設内から見える所にあり、季節の移り変わりを感じるとともに、野菜作り、収穫、食卓に並んだ時の会話等、絶えず笑顔が見られる。 ・協力歯科医の定期的(最低月1回)な訪問による歯科指導・個人診断・歯科スタッフの口腔歯科の寸劇、多様な交流を毎月行っている。 ・市内のデイサービスセンター(金ケ崎町)へドライブを兼ねながら行き、歌謡・舞舞ショー、交流会等楽しみの一つとしている。 ・道路向かいにJAの産直がオープンし、買い物はもとより、様々なイベントの開催等に足を運び、生活の中での楽しみになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地近郊の広大な田園地帯をJAグループが開発整備し、イチゴハウス栽培施設と大規模産直施設が並びその前面に位置する「グループホームえんじゅの里」は、2011年4月に開所され、地域密着型サービスとして、地元の期待を担っている。建物内部は、懐かしい吹き抜け式の造りで、太い梁が耐震構造の安心感を漂わせている。広々とした居間・食堂などの共用スペースは広く、ゆったりと、利用者はそれぞれの場所で思い思いの生活を楽しまれている。家族・親戚・友人等の来訪が多く、活気に満ちている。広い廊下からホームの畑が見え、四季折々の野菜栽培を眺めることが出来る。</p> <p>停電想定訓練や無通告による火災通報訓練を実施し、発電機の試運転を職員が毎月交替で行っている。面会受付簿を利用者ごとに備え、それぞれの知人等のつながりも職員が把握しやすくしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常の実践に反映させるような「私達の理念」を職員皆で話し合い作った。日常生活で活かせるよう事務室・玄関に表示し、又、職員会議等で皆で唱和している。	昨年、理念を全職員で再考し、分かり易い内容とし、職員会議時等に唱和している。日々の業務の中で、自然と情性になりがちなこともあるが、理念の唱和などにより、新たな気持ちで、ケアを行っている。それらを意識し、唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は少ないが、地域の文化祭に招待を受け作品を出品したり、踊りの見学時には席を用意して頂いたりする。施設敷地内での夕涼み会には近隣の方々も参加され、屋台や花火等一緒に楽しまれた。	自治会には加入していないが、地域の文化祭、ホームの夕涼み会、町のお祭り、マラソン・駅伝応援など盛んに交流している。文化祭には利用者全員で作ったちぎり絵を出展し、皆で見学にも行ってる。その際に、特別席を用意して頂いたりなど、気配りをしていただいている。夕涼み会は、地域の方と共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くにJAの産直が出来た事により、地域の方々などによる施設見学者が増えた。見学時には施設設備・環境、認知症高齢者の理解と支援を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・施設の状況報告を行うとともに運営について助言を頂いている。又、各々の立場の委員からの意見や要望等様々な情報を交換し合いサービスの向上に努めている。	委員は利用者・家族・市担当職員・地域の民生委員・振興会長・センター長・消防団員で構成され、運営状況報告や、市からの連絡や防災関係など様々な内容を話し合っている。利用者と家族は参加可能な方々に出席いただき、感謝の言葉が出ている。特に防災関係の話題が多く、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換のほか、入居希望及び相談者の情報交換を行っている。又、制度の問い合わせ・事業所の状況等の相談を行い指導を受けている。介護相談員の訪問が半年毎にあり、利用者の日々の様子等を伝えている。	運営推進会議での意見交換のほか、入居希望やそれに関する情報交換、生活保護の手続きなどで、随時関わりを持っている。また、市主催のケア会議にも出席し、事例発表にて意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修に参加し、職員会議では身体拘束はなぜいけないのかを皆で話し合い、身体拘束を行わないケアを行っている。日中は施錠はしていない。	拘束の可能性がある利用者や対象となり得る方はいないが、職員会議時に併せて、話し合い(研修)を実施している。法人全体での研修も行い、職員への意識の共有を図っている。利用者への関わりについて、自然体を意識することで、穏やかで明るいホーム内の雰囲気作りに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に参加し、職員の虐待防止に対する意識向上に努めている。職員会議では声かけや介助等で気になる事がある場合、皆で話し合いを持つようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されてる利用者があり、後見人の方とは常に細かく連絡をとり支援している。又、年1回研修会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には、本人・家族と入居後の対応及び生活について話し合い、不安軽減に努めている。制度・料金改正の際は文章にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」の設置や苦情相談窓口及び方法等について掲示している。家族とは毎月のお便りに記入欄を設け意見・要望を聞く様にしている。電話や家族が訪れた時などに意見・要望を頂き話し合い、意思の疎通を図っている。	担当職員が毎月の便り(会計・情報提供等)に家族の記入欄を設け、意見・要望等を伝え易いように配慮している。面会に来訪した際にも、気軽に対話できるような雰囲気づくりに留意している。意見・要望は、職員会議やミーティング時に話し合い、反映することが出来るよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、利用者の個々の状態について話し合い、職員の意見・提案等認識を共有し合っている。業務改善・行事の対応についても常に話し合いを行い進めている。	他事業所での経験がある職員が多く、改善等に対する意識も高い。職員会議時には活発な話し合いがなされ、「利用者ごとに、家族との連絡フォルダーを事務室のサイドに並べて吊るし、コミュニケーションを図っている」「訪問者受付簿を利用者ごとに備え、個々の人間関係を把握しやすくしている。」等の工夫が実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、外部研修会への参加、会社として資格取得に向けた助成制度が整備されている。管理者は勤務表の作成、就業報告書は代表者検印となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回のCS向上でマナーの研修を取り入れている。職員の知識・技術向上のため年間計画を作成し実施している。外部研修会後は報告の場を設け情報の共有をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加し情報交換している。又、認知症の研修会にも参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を早期に築けるよう入居前に訪問し、家族等から情報を得て状況を理解するようにしている。又、要望・訴え等に傾聴し本人が安心感を持って頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には家族の不安・要望を十分に聞くようにしている。又、入居後には面会をお願いして家族との信頼関係の早期構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往や生活歴、本人や家族の必要としている思いを考慮し、職員間で話し合い情報を共有し、支援を開始している。又、状態観察を行い記録は細かく、申し送りを徹底し、一日でも早く馴染んで頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の習慣を教えて頂いたり、日常生活において、掃除、調理、配膳、後片付け、洗濯たみ、畑の草取り、収穫等、利用者の得意分野で力を発揮・お願いしたりして互いに支え合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りやホール内に貼ってある掲示物・利用者の作品の展示物で生活状況を伝えている。又、家族参加の行事を計画し、来所して共に楽しく過ごして頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が前に住んでいた近所の方々や、近隣・遠方の親せきの方が多く来て下さる。その際にはゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。知人・親戚に年賀状を書いて状況を伝えている。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気、利用者個々の雰囲気が良いこともあり、家族や知人・友人の来訪者が多い。ゆっくり面談ができるスペースも用意され、細かい配慮がみえる。希望の方には、年賀状等も出すための支援をし、それぞれの繋がりの継続にも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしたり、笑顔で過ごせる関係を築けるようホールの座席に配慮している。職員が一人ひとりの場面に応じた声がけを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には見舞いに行き、家族と連絡を取り合い今までの生活に近づけるように相談している。又、他施設に移られても今までの生活に近づけるよう家族や施設側と連絡・相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の利用者・家族等の情報に基づき、本人の希望・意思を職員同士で情報を共有しながら支援に活用している。又、一人ひとりに担当職員を決め、利用者が安心して想いを話せるように努めている。	1年ごとに利用者の担当の職員を決め、日々の関わりの中で、個々の思いを確認するようにしている。また入浴中に、昔話をしながら、本心や利用者の気持ちを窺い知ることもある。些細なことでも大切に申し送りをし、共有している。センター方式を利用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問により家族・本人から可能な限りの情報を得るように努めている。又、日常生活の会話の中から本人の情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・ケース記録・健康チェック表等の記録・ミーティング等を通じ、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの希望や情報を基に、職員会議で話し合い計画を作成している。状態に変化等が見られた場合は、担当の職員からヒアリングをし、本人・家族の要望等職員会議での意見を反映し、計画の作成・見直しを行っている。	ケース記録・業務日誌・申し送りなどを基に、利用者・家族からの希望を聞き、職員会議で話し合い、担当の職員が中心となり、素案を作成している。6ヶ月に一度の見直し等を行っているが、変化に応じ、臨機応変に対応している。常に、多角的な目で見、確認することを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌、申し送り等により職員会議で情報を共有している。毎月の職員会議では、日常生活での気づきを基に援助の見直しなどを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により通院介助が困難な場合は職員が同行介助している。又、毎月JAの理容室がボランティアとして訪問している。会社が運営するデイサービスセンターに出向き(金ヶ崎町)歌謡・舞踊ショー・交流会等を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報・各種情報、地区センターが毎月発行する広報により地域の行事等、情報の収集に努め話題にし、時には見学・参加して生活にメリハリをつけている。近くの駐在所に入居者の情報を提出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族対応としているが、困難な場合は職員が対応している。主治医には必要に応じ施設での情報・状況等提供している。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人のこれまでのかかりつけ医や、希望の病院へ受診している。必要に応じ受診の付き添いや、家族とも同行しており、普段の様子や変化を伝えるようにしている。今季のインフルエンザの予防接種は個々のかかりつけ医で受けることとしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ同士が互いに情報共有し利用者の体調変化に早く気づき、職場内の看護師に伝えて相談し対応している。、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報(生活の様子等)を医療機関に提供すると共に、入院中は病院を訪問し経過を聞くなど連携を図り支援している。退院後も利用者が安心して生活できるよう情報交換を密にし病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての指針を作成すると共に、入居時には家族に説明し同意を得ている。また、該当する入居者は居ないが、主治医・家族の協力体制のもと、十分に打ち合わせを行い取り組むこととしている。	看取り指針はあるが、看取りの対応はなく、体制等が不十分と感じているが、利用者・家族のニーズに応じていけるように体制を整え、主治医・家族の協力を得ながら、支援に取り組むこととしている。指針に基づいて、職員間で話し合いや知識を深めつつ、より一層の意思統一をすることが大切である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。社内外研修で救急救命の講習を受講し急変時に備えている。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回の夜間・昼間を想定した火災避難訓練を実施している。又、停電想定訓練・無通告による通報訓練を行っている。非常用備品を備蓄している。近くの地区センターが地域全体の災害時の避難場所となっている。	停電想定訓練や無通告火災通報訓練のほか、消防署の指導による昼・夜の避難訓練など、様々な訓練を重ね、更には発電機・地域への通報装置(サイレン)など、人的・物的な備えも整えている。非常時の近隣からの応援体制の構築も進めていきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を理解し、人格を尊重し、その方に合った声がけや対応を心掛けている。OJTチェックリストを活用し日々の利用者に対する言葉かけや対応を見直しをしている。	OJTチェックリストを用意して自己点検を行っている。利用者に関すること(性格や体力等身体的なこと)を把握し、さりげなくフォローし、利用者の長所を褒めることで、笑顔や活気を引き出している。ホーム内の雰囲気は明るい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、掃除・入浴・外出等、本人が自己決定出来るように支援している。又、複数の選択肢から決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望、テレビ観賞・読書・自室でラジオを聞く・横になりたい等、その方のペースを大切にして、一人ひとりの状態や想いに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回JAの理容師が来所し利用者・家族の希望、要望を聞きながら理容している。更衣に関しては本人の意思を尊重し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節を感じて頂けるよう旬の食材を利用し、利用者の希望を考慮しながら作っている。他利用者と楽しく食事ができる様、食事の挨拶(声がけ)・食事の用意・食器拭き・テーブル拭き等役割を持って頂き一緒にやっている。	家族や近所からの差し入れや、ホームの畑の野菜を使い、四季折々の料理を楽しんでいる。職員で調理師の有資格者がいることで、栄養バランスも良くメニューが立てられている。利用者は、準備・片付け時の役割を自然に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表にて一日の水分摂取量を把握している。食事チェック表にて一日の栄養摂取量を把握すると共に、個々に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声がけを行い、必要な方に口腔清掃、義歯の取り扱いを支援している。義歯の方の消毒は夜間に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、各々排泄パターンを把握し、定期的な声がけや誘導等、トイレでの排泄・排便を支援している。	排泄に関して自立している方が6名ほどいる。それぞれの排泄パターンは、排泄チェック表により確認されており、職員は共有し、さりげない声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	パタカラ体操等を行い飲食物の摂取向上に努めている。排泄チェック表により便秘の方を把握し、下剤で排泄コントロールを行っている方もいる。入浴時などにお腹のマッサージを行い便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴習慣や入浴の好み(入浴剤・湯温等)に応じた対応を心掛け、安全な入浴を楽しめるよう支援している。拒否される方には無理強いせず時間をずらして声がけや翌日の入浴など柔軟に対応している。	2日に一度のペースで、午後の入浴を行っている。拒否の際は、時間差で対応したり、日を変えたりして対応している。希望により毎日入浴する利用者もいる。入浴前の昼食後に血圧測定等チェックを行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、音楽をかけ皆で体操をしたり作品を作ったり等日中活動を促している。寝付けない時はゆっくりと話をしたり、温かい飲み物を提供している。又、心身の状態把握に努め、寝具・空調・照明等を調整し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理し常に確認出来るようにしている。体調等に変化があった場合、経過記録等に記録し、必要な場合は家族に報告するようにしている。服用時は本人に手渡したり、口内までの支援等、飲み込みまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、掃除、洗濯物干し、たたみ方、調理、片付け等利用者の希望にそった役割又は適切な役割を見出し満足感と楽しみが出来るように支援している。利用者の誕生日に行う誕生日会も楽しみとなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には、利用者の希望にそって施設の周囲を散歩したり、車での買い物時には一緒に出掛けたりしている。戸外に出かける行事を計画し外出する楽しみを味わって頂けるよう支援している。	周囲は広々とした田園地帯で、毎日の散歩は、周囲を10～15分程歩いたりしている。直ぐ前には、農協の大規模な産直店もあり、徒歩で買い物に行ったりしている。遠出は、狛鼻溪や夏油温泉やジャスコに行ったりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっている方もいる。必要な物がある時は職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している利用者があり、時々介助している。家族・知人からの電話は取り次ぎをしている。又、自筆の年賀状など家族・知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所で食事に関する五感を感じて頂き、又、季節の良い時には窓を開け、心地の良い風・温もり・季節を感じて頂いている。ホール内に各行事の写真を貼っている。	玄関から入り、すぐに吹き抜け式の太い梁が見える広々とした居間兼食堂となっている。空間の美を活かし、また安心感を抱くことが出来る造りとなっている。畳の部屋もあり、訪問者との会話ができる机も用意されている。廊下の入り口には装飾ボックスもあり、細かい配慮が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビ・ソファー・リクライニング椅子・電子ピアノ、和室には寝座布団があり自由にくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、居室には写真・テレビ・馴染みの筆筒・机・椅子など持ちこまれている。	居室はフローリングでベット・クローゼット・洗面台が備えられ、利用者はテレビ・机・イス・写真などを持ち込み、それぞれ、心地良い生活空間を作っている。趣味の大正琴や裁縫道具を持ってきている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場等には表札で表示している。又、居室内の安全確保のため個々に応じた対応をしている。クッション性のある床材を敷いて安全に過ごせるようにしている。		